

タデスミレ保護回復事業計画の評価検証結果について（概要）

1 タデスミレについて

- ・タデスミレはスミレ科の多年生草本で、国内では長野県にのみ生育しており、長野県内では現在、県中部の限られた地域でのみ確実な生育が確認されている。
- ・『長野県版レッドリスト（植物編）2014』で絶滅危惧 IA 類。特別指定希少野生動植物。
- ・保護回復事業計画策定年度：平成 19 年度（2007 年度）

2 計画の目標・取組事項




(1) 計画の目標

- ・タデスミレの生育環境と生態の調査を進め、現在、明らかとなっていないタデスミレの生育・繁殖の適正環境を把握し、その上で、本種が自然状態で安定的に維持される状態
- ・人為的な保護増殖事業

(2) 取組事項

- ・生育状況・環境調査、自生地の管理、人工増殖技術の開発、生育地情報の把握・共有

3 計画策定以降の対象種の動向

指 標	計画策定時	評 価 時	動向
認定事業地の個体数 （開放花個体）	平成 21 年（2009 年） 58 個体	平成 26 年（2014 年） 40 個体（推定）	
認定事業地の実生個体数	平成 22 年（2010 年） 5 個体	平成 26 年（2014 年） 6 個体	
認定事業地のシカ食害対策	平成 22 年（2010 年） 食害率 26.5~32.2%（8 月）	平成 26 年（2014 年） 食害率 0%（6 月）	
補 足 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・認定保護回復事業計画に基づき生育状況及び環境調査が行われた調査区（83.5m²）の個体数をもとに比較した（調査期間：平成 21~23 年、実生個体数は平成 22 年~23 年）。シカ食害率は、平成 25 年（2013 年）に設置した防鹿柵内の調査区（62.5m²）の調査結果にもとづき比較した。 ・認定事業地のシカ食害率は、計画策定時（平成 19 年）には 0.8%であったが、計画策定後に増加した。このシカ食害の増加にともない、開花個体数はいったん減少したが、平成 25 年（2013 年）に事業地の一部を囲う防鹿柵を設置したことから、現在回復傾向にあるものと判断した。 ・認定事業地外の自生地についても、シカ食害が深刻化しており、認定事業地外のタデスミレ保存区に平成 26 年（2014 年）に防鹿柵を設置した。 		

4 成果

- タデスミレの生育環境と生態の調査が進められ、自生地管理のための手法等が定められた。
- 認定団体の試験研究により、これまで難発芽性とされていた本種の種子発芽技術が確立された。
- 長野県の生物多様性保全活動協働事業により防鹿柵の設置が進められ、ニホンジカによる食害が低減した。

5 専門委員会による保護回復事業計画の継続に関する判定と意見

(1) 計画継続に関する判定：計画継続（部分的な修正を含む）

(2) 付帯意見（概要）：

- ア 植物専門小委員会の付した意見（生育地の市町村と連携した保全活動の推進、防鹿柵設置範囲の拡大等）に対応すること。
- イ 自生地では、全域的にシカ食害が深刻化していることから、認定事業地以外を含む自生地全体で、播種や種子発芽苗の植栽による個体の存続を検討すること。